

札幌市スポーツ推進計画掲載事業の取組状況一覧

自己評価基準

- : 当初の目的を達成したもの、または達成が見込まれるもの。／事業に終期や目標値がなく、当面、継続していくもの。
- △: 現時点で目標は達成していないが、関連する事業・取組が実施されているもの
- ▲: 現時点で目標を達成することが困難で、今後に向けて検討を要するもの

目標1 スポーツを通じて市民、誰もが元気に			
方針1 四季を通して誰もが気軽にスポーツに触れられる環境を作ります			
施策1 施設利用やサービスの情報を充実させます			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
公式ホームページや広報誌の充実	公式ホームページや広報誌を利用者視点から見直すとともに、パブリシティを積極的に活用し、情報発信を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業やイベントの実施状況に合わせた公式ホームページの更新を実施。 ・チラシ・パンフレット作成などの広報活動は、常に利用者視点に配慮しながら取組を実施。 ・平成29年度にはプロスポネットSAPPORO3チーム(北海道日本ハムファイターズ、北海道コンサドーレ札幌、レバンガ北海道)合同の「プロスポーツがあるまちさっぽろ」をPRする動画を作成し、チカホや市公式ホームページ等で放映。 	○
観光関連サイトやパンフレットの充実	さっぽろの観光情報サイト「ようこそさっぽろ」やメールマガジン、観光文化情報ステーションにスポーツ施設やスポーツイベント等の情報を積極的に掲載し、市内外の方が手軽に情報を入手できるようにします。	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、事業やイベントの実施内容に合わせた手法により広報活動を実施。 ・平成29年度からはスポーツボランティア(スマイル・サポーターズ)への普及啓発や情報提供のためメールマガジンも活用。 	○
出前講座やさっぽろ市民カレッジの実施	行政からの情報提供と、対話によるまちづくりの幅広い担い手の育成を目指して、市民の学習の機会を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座を地域や団体からの要望に合わせて実施しているほか、冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けた機運醸成の一環としてオリパラ教育を推進。 ・さっぽろ市民カレッジでは、札幌市生涯学習センターを拠点として、市民に学習機会を提供。スポーツに関する講座としてダンスや空手、フィットネスなど、幅広い世代にスポーツを体験できる機会を提供。 	○
今後検討を要する取組			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
ICTの活用による情報発信とサービスの充実		<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ施設公衆無線LAN整備事業」により、札幌ドーム、大倉山ジャンプ競技場、宮の森ジャンプ競技場、白旗山競技場、月寒体育館、美香保体育館、どうぎんカーリングスタジアムに無線LAN環境を整備。 	○
施設利用や情報発信の多言語化		<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理施設ホームページの多言語化を実施。 ・外国人観光客による利用が多い施設では、案内表示等の多言語対応を実施。 	○
施策2 ウインタースポーツを楽しむ機会を充実させます			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
カーリング普及事業	カーリングを幅広い世代が楽しむことができる生涯スポーツとして普及させるとともに、観光客が気軽にカーリングを楽しめる機会を作り競技人口の増加や、観戦者の拡大を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうぎんカーリングスタジアムで以下の3つの取組みを実施。 <ol style="list-style-type: none"> ①常駐指導者によるカーリングの技術指導 ②氷に親しむための子ども向け指導プログラムの実施 ③子ども向け広報誌の作成発行 ・事業開始から利用者は増加傾向。今後は競技力向上のため、これまでの主体だった初心者向けの指導体験から、継続的にカーリングに触れるきっかけ作りシフトしていく予定。 	○

ウインタースポーツキャラバン	地域の公園等に用具や指導者を配置し、子ども達に雪遊びやウインタースポーツの体験の機会を提供し、冬季に屋外で遊ぶ機会が減っている子ども達に、ウインタースポーツに親しむ習慣づくりを行います。	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度まで複数の市内幼稚園で実施。 平成27年度より、「大通公園ウインタースポーツフェスティバル」での雪遊びを後継事業と位置付けて実施。 	○
さっぽろっこスキーリサイクル	スキー学習の実施に伴う保護者の負担の軽減を図るため、市民からスキーセットの提供を受け、希望する幼児や児童、生徒に提供します。	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルスキー提供セット数は300前後に対し、市民の応募者数が3,000人前後。 提供数の不足が課題となっており、周知方法や回収時期の見直し、検討が必要。 	○
大通公園ウインタースポーツフェスティバルの開催支援	さっぽろ雪まつりの残雪を有効活用して、市の中心部である大通公園に、誰もが気軽にウインタースポーツや雪遊びを楽しめる空間をつくり、札幌の冬の魅力を発信するとともに、ウインタースポーツの振興を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度から開催。平成23年度から事務局を担っているHBCが平成28年度をもって実行委員会を退会し、平成29年度から、スポカル実行委員会の協力のもと事業を継続。 平成29年度は、平成30年2月25日に大通公園で開催。アイスホッケーのシュート体験、ボブスレー体験、スキージャンプ体験など、14種目の体験コーナーを設置。 	○
ウインタースポーツ競技大会の開催支援	市民体育大会をはじめ、札幌発祥のウインタースポーツであるスノーホッケーやスキージャンプ、クロスカントリー等の競技大会を、継続的に支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市長杯スノーホッケー大会の開催や札幌市長杯サマージャンプ大会、札幌国際スキーマラソン大会などを引き続き継続的に支援していく。 	○

今後検討を要する取組

事業名	実施状況	自己評価
ウインタースポーツの活性化	<ul style="list-style-type: none"> 「ノルディックスキー札幌大会記念ウインタースポーツ活性化事業（平成20年度開始）」により、モデル事業を実施してきたほか、この事業から派生して、「さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業」を平成28年度から実施。 その他、「ウインタースポーツ塾」、「さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成事業」など、ウインタースポーツの活性化に向けた事業を多数実施。 	○

施策3 トップアスリートやアスリートと身近に触れ合う機会を増やします

主な事業展開

事業名	事業内容	実施状況	自己評価
オリンピックズキャラバン事業	スポーツによる地域の活性化に取り組んでいる団体にオリンピック経験者等のアスリートを派遣し、体験会や講習会を実施し、スポーツ機会の提供と充実を図るとともに、地域の活性化を促します。	<ul style="list-style-type: none"> 派遣イベントは毎年15件程度。参加人数は増加傾向。（平成27年度：1,470人⇒平成28年度：1,730人⇒平成29年度：2,336人） 今後は、障がい者スポーツ体験会やパラアスリートによる講演会依頼への対応のため、パラアスリートとの協力体制の構築が必要。 	○

<p>トップアスリート育成支援補助事業</p>	<p>札幌出身のアスリートを育成するため、競技者やスポーツ団体に対して、選手や指導者の育成、大会の開催や選手派遣等の事業への支援を行います。</p>	<p>・平成28年度より「さっぽろアスリートサポート事業」として以下の補助金を交付。 ①派遣サポート事業～平成28年度：45件⇒平成29年度：198件 大会参加経費のうち選手が負担する経費の一部を補助 ②育成サポート事業～平成28年度：3件⇒平成29年度：14件 中央競技団体が行う強化合宿やスポーツ医科学研修会などに参加する経費の一部を補助 ③測定サポート事業～平成28年度：2件⇒平成29年度：3件 科学的で合理的なトレーニングのため、各種測定経費の一部を補助 ④大会開催サポート 小・中・高校生対象の全道規模以上の大会開催に係る経費を補助 ⑤指導者育成サポート～平成29年度：1件 日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づく、競技別指導者資格(コーチ、上級コーチ、教師、上級教師)取得講習会受講料、受験料を免除する。 ・今後も、札幌市体育協会及び各競技団体と連携し、若手アスリートのニーズを取り入れながら、事業内容の充実を図る。</p>	<p>○</p>
<p>プロスポネットSAPPOROによるプロスポーツチームとの連携</p>	<p>札幌市に本拠地を置く3つのプロスポーツチームと連携・協力により、観る文化の醸成をはじめ、地域やアマチュアスポーツ団体への指導、シティプロモートやスポーツツーリズムの推進を図ります。</p>	<p>・北海道日本ハムファイターズ、北海道コンサドーレ札幌、レバンガ北海道の3チームと連携し、「区民応援デー」、「共通スケジュール表の作成」、「サッポロキッズデー」などを含む6事業を実施。 ・平成29年度からはエスポラーダ北海道も加入。今後は4チーム連携による新たな取組みの検討が必要。</p>	<p>○</p>

今後検討を要する取組

事業名	実施状況	自己評価
<p>競技団体による地域や学校への指導者の派遣</p>	<p>・「運動部活動アスリート派遣事業」を平成28年度から実施。 ・中学校の運動部活動に外部指導者としてアスリートを派遣しており、平成28年度は10箇所の部活動に派遣。 ・平成29年度は派遣校が16校に拡大。申込校は22校であり認知も拡大。 ・今後は、派遣可能種目の増強、ニーズのある多くの学校への派遣のため、アスリートの確保が必要。</p>	<p>○</p>
<p>アスリートの人材バンクとの連携</p>	<p>・「オリンピックズキャラバン事業」、「運動部活動アスリート派遣事業」においてA-bank北海道にアスリート派遣を依頼。アスリートが地域のスポーツイベントにおいて講師として参加協力、中学校の運動部活動の充実のための派遣協力。 ・オリンピックズキャラバン事業 平成25年度：2名、平成26年度：1名、平成27年度：2名、平成28年度：3名、平成29年度：5名 ・運動部活動アスリート派遣事業 平成28年度：8名、平成29年度：8名</p>	<p>○</p>
<p>アスリートの競技活動のサポート</p>	<p>・「札幌市スポーツ振興基金助成金」により国際大会や全国大会への参加費の一部を補助。 ・「さっぽろアスリートサポート事業」により全道大会の開催費用や、強化合宿、強化練習に関する経費の一部を補助。</p>	<p>○</p>

方針2 ライフステージや体力に応じてスポーツを楽しみ、健康や生きがいを得る機会をつくります

施策4 子どもがスポーツを体験できる機会を充実させます

主な事業展開

事業名	事業内容	実施状況	自己評価
<p>地域スポーツマスター活用事業</p>	<p>中学校スキー学習に地域の指導者を派遣し、スキー学習の実施を維持するとともに、区や競技団体と連携して、地域のスポーツ指導者としての人材を掘り起こし、地域コミュニティの活性化を図ります。</p>	<p>・「地域スポーツ指導者活用事業」として実施。平成28年度においては、21校の中学校のスキー学習などの体育授業に58名の地域スポーツ指導者を派遣。 ・平成29年度からは、冬季スポーツへの派遣だけでなく、年間を通じた体育活動(柔道、ダンスなどを想定)に対して地域スポーツ指導者の派遣を拡大。 ・今後は、人材の確保、指導者と学校側の連携などが課題。</p>	<p>○</p>

子ども元気アップ事業	未就学児とその保護者を対象に、運動習慣の重要性を啓発するパンフレット等を配布します。また、家庭でもできる運動遊びプログラムの提供を目的に運動遊び教室や体力測定イベントを実施します。	・さっぽろ健康スポーツ財団の自主事業として各区の体育館等で実施。	△
国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業	中学生を対象として、札幌市の姉妹都市（ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田広域市）との相互スポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱ききっかけを生み出します。	・各姉妹都市の中学生選手団と札幌の中学生選手団によるスポーツ交流を実施。 ・各都市との提携記念年には札幌から選手団を派遣するほか、5年に1度は受入を実施。	○
児童会館中・高校生夜間利用（ふりーたいむ）	市内の児童会館の開設時間を延長することにより、中・高校生の放課後の活動場所を確保し、スポーツ等を通じた健全育成と、異年齢、異世代の交流の場を作ります。	・札幌市内の103館（全104館）において週2回午後9時まで時間延長。 ・平成29年度においては開館施設を2館増やしたものの、利用人数は徐々に減少傾向。	○
「子どもの体力向上」についての研究開発事業	児童や生徒の体力・運動能力調査の実施等により、札幌の子どもたちの体力について分析するとともに、体力向上に向けた方策を検討します。	・教）学校教育部が、平成29年度から子どもの体力・運動能力の向上を目的に、「子どもの体力向上推進事業」として実施、事業は3か年の予定。 ・体育研究指定校において、子どもの体力・運動能力に関する調査、実践研究を実施、成果検証を行うとともに各学校へ情報提供。 ・スポーツイベントとして、平成30年2月17日に「なわとび甲子園」を試行開催し、約50人の児童（小中学生）が参加。	○
施策5 高齢者が気軽にスポーツを楽しむ機会を充実させます			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
健康づくりセンターにおける健康づくり事業	健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めてもらうことにより、市民の健康づくりを推進します。	・健康づくりセンター総利用者数（3館合計）～33万7千人（前年度31万6千人） 平成29年度における各プログラムの参加者は以下のとおり。 ①健康度測定～1,460人（前年度1,398人） ②運動指導事業～309,505人（前年度288,497人） ③女性のフレッシュ検診～664人（前年度714人） ・事業の利用率が伸び悩んでいることから、平成30年度から平成31年度にかけて、医療機関等に向けて積極的に広報を行うとともに、医療機関や関係機関とより密接な連携を行い、重点化すべき対象者の取り込みを図る。	○
地域の健康づくり推進事業	地域に健康づくりサポーター等を派遣して、市民の自主的な健康づくりを推進します。また、ウォーキングマップの作成やウォーキング推進キャンペーンの実施により、運動習慣の定着を図ります。	・健康づくりサポーター（健康づくりに関する指導経験を有する市民）を町内会などの地域組織に派遣している。 ・年間派遣回数：平成25年：64回、平成26年：69回、平成27年：100回、平成28年：103回、平成29年：106回と増加傾向。 ・派遣先のグループでは、活動を順調に継続中。派遣効果が見られる。	○
全国健康福祉祭「ねんりんピック」派遣事業	スポーツや文化等の交流大会、健康・福祉に関する各種イベントなどが開催される高齢者の総合的な祭典に選手を派遣し、高齢者の健康の保持・増進、社会参加の促進、生きがいの高揚を図ります。	・派遣選手人数は毎年100人程度で推移 ・今後も高齢者の生きがいづくりや健康づくりを目的に事業継続。	○
老人クラブへの活動支援	健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている単位老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う札幌市老人クラブ連合会の活動を支援します。	・老人クラブが行うスポーツ健康増進活動や文化・教養・趣味活動に対し補助を実施。 ・老人クラブ加入者数は概ね27,000人で推移しているが、徐々に減少する傾向にあり、会員の高齢化による活動の広がりにくさが課題。	○

施策6 障がい者のスポーツによる交流を支援します			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
スポーツ施設のバリアフリーの実施	施設の改修に併せて、スロープや手すり、エレベーターの設置等、ハード面のバリアフリー対策を行うとともに、点字やサイン等の情報のバリアフリー対策を実施し、高齢者や障がいのある方が施設を利用しやすくします。	・各スポーツ施設の保全改修時に、手すりや点字タイル、オストメイトなどを設置、今後も継続的に実施。	○
再掲	健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めてもらうことにより、市民の健康づくりを推進します。	・健康づくりセンター総利用者数(3館合計)～33万7千人(前年度31万6千人) 平成29年度における各プログラムの参加者は以下のとおり。 ①健康度測定～1,460人(前年度1,398人) ②運動指導事業～309,505人(前年度288,497人) ③女性のフレッシュ検診～664人(前年度714人) ・事業の利用率が伸び悩んでいることから、平成30年度から平成31年度にかけて、医療機関等に向けて積極的に広報を行うとともに、医療機関や関係機関とより密接な連携を行い、重点化すべき対象者の取り込みを図る。	○
障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援	札幌市障がい者スポーツ大会(すずらんピック)等のスポーツ大会の開催費用や、市外で開催される大会への選手の派遣費用等の一部を助成し、障がいのある方のスポーツ大会への積極的な参加を促します。	・保)障がい福祉課による「札幌市障がい者スポーツ大会開催事業」、「全国障害者スポーツ大会札幌市選手団開催派遣事業」として実施。 ・札幌市障がい者スポーツ大会(すずらんピック)は毎年5月に開催。 ・すずらんピック参加選手は毎年1,000人前後。また、毎年100人弱の選手を全国障害者スポーツ大会へ派遣。	○
今後検討を要する取組			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
スポーツ施設における障がいのある方の受入れ体制の充実		・各施設では、保全改修工事等の際に、環境の整備を順次実施。 ・さっぽろ健康スポーツ財団において、サービス向上のため障がいのある方への配慮のガイドライン、コミュニケーション支援ボードなどを作成。	○
障がいのある方のスポーツ大会への参加の促進		・平成30年度から札幌市障がい者スポーツ大会(すずらんピック)と札幌市民体育大会を合同でPRするポスターを作成し周知を図ることで、障がいのある方のスポーツ大会への参加を促進。 ・今後、全国障がい者スポーツ大会において、種目、参加対象者の拡大が見込まれるため、事業規模の拡大が必要。	○
施策7 スポーツに親しむ機会の少ない人のスポーツ活動を増やします			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
スポーツ活動促進キャンペーンの実施	就職や結婚・出産・子育てを機会にスポーツをしなくなってしまった人や、スポーツに興味の薄い人を対象として、スポーツ活動を促進するキャンペーンを展開し、スポーツ実施率の向上を図ります。	・平成29年度に「ウォーキングや散歩」などの手軽な運動を促進することを目的に、主に積雪期間に、地下歩行空間、大通駅からバスセンター前駅までのコンコース、地下鉄車両内において、ウォーキングや、階段の積極的な上り下りを啓発するポスターを掲示。 ・今後は、ビジネスパーソンや女性に重点を置き、働きかけに関する取組みを検討。	△

<p>「さっぽろスポーツデー」の創設</p>	<p>世代や競技レベルにとらわれず、地域住民が誰でも気軽に参加できるスポーツイベントとして、地域スポーツクラブや競技団体等と連携しながら、市民向けの様々な事業を展開します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に各区1体育振興会が「地域スポーツデー事業」を実施。 ・各区には複数の体育振興会があることから、特定の体育振興会と連携事業を実施するのではなく、今後は、体育振興会連絡協議会との連携を図りながら地域スポーツの活性化を検討。 ・なお、各区では多くのスポーツイベントを実施しているほか、豊平区では「とよひらスポーツ応援プロジェクト事業」において、札幌ドームで家族向けのスポーツイベント「スポーツバイキング」を開催するなど、競技団体等と連携し市民向けの事業を展開。 	○
<p>再掲 健康づくりセンターにおける健康づくり事業</p>	<p>健康づくりセンターを活用し、個人の健康状態に応じた保健指導、運動の実践、指導を行い、自らの健康状態についての認識を高めてもらうことにより、市民の健康づくりを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりセンター総利用者数(3館合計)～33万7千人(前年度31万6千人) 平成29年度における各プログラムの参加者は以下のとおり。 ①健康度測定～1,460人(前年度1,398人) ②運動指導事業～309,505人(前年度288,497人) ③女性のフレッシュ検診～664人(前年度714人) ・事業の利用率が伸び悩んでいることから、平成30年度から平成31年度にかけて、医療機関等に向けて積極的に広報を行うとともに、医療機関や関係機関とより密接な連携を行い、重点化するべき対象者の取り込みを図る。 	○
<p>身近な地域におけるウォーキングコースの設置</p>	<p>市民と共に、豊かな自然や魅力あふれる街並みを巡ることができるウォーキングコースを設定し、マップを作成したり、より楽しくウォーキングを続けられるようなコース整備をするなど、身近な地域で気軽にウォーキングを楽しめるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市立大学学生と協力して、若い世代、働く世代を対象にウォーキングマップを作成。 ・平成25年度は交通局との協働事業として地下鉄を起終点としたウォーキングマップを作成。平成26年度はラジオを活用したPRを実施。 ・ウォーキングマップの作成が完了したため、事業としては平成26年度で終了。 	○
<p>スポーツ振興基金助成金</p>	<p>広く市民を対象としてスポーツ大会や講習会を実施する団体に対して助成金を交付し、市民のスポーツ活動の普及振興を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、合計3,310千円の補助金を交付 ・障がい者と子どものスポーツ実施率向上につながるような制度とするため、平成29年度に申請手続きの簡素化を行うなどの改正を実施。 ・今後もより使いやすい制度となるよう、利用者の意見などを聞きながら、制度のあり方を検討する。 	○
<p>今後検討を要する取組</p>			
<p>事業名</p>		<p>実施状況</p>	<p>自己評価</p>
<p>スポーツ施設における託児サービス</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・さっぽろ健康スポーツ財団の教室事業(自主事業)として東区体育館及び白石区体育館で実施。 ・利用者は各区体育館とも5人程度。今後も両体育館での事業は継続する予定。 ・他に、乳幼児と親と一緒に受講できる教室事業を体育館、プールで実施しており、一緒に体験する教室は受講者が多くニーズも高い。 ・今後も、ビジネスパーソンや女性のスポーツ参画を促進していく中で事業の必要性を検討。 	△

自己評価基準

- : 当初の目的を達成したもの、または達成が見込まれるもの。/ 事業に終期や目標値がなく、当面、継続していくもの。
 △: 現時点で目標は達成していないが、関連する事業・取組が実施されているもの
 ▲: 現時点で目標を達成することが困難で、今後に向けて検討を要するもの

目標2 スポーツを通じて地域が元気に			
方針3 スポーツを通じて人と人とのふれあいの機会を作ります			
施策8 家族でスポーツを楽しむ機会を作ります			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
再掲 子ども元気アップ事業	未就学児とその保護者を対象に、運動習慣の重要性を啓発するパンフレット等を配布します。また、家庭でもできる運動遊びプログラムの提供を目的に運動遊び教室や体力測定イベントを実施します。	・さっぽろ健康スポーツ財団の自主事業として各区の体育館等で実施。	△
再掲 ウインタースポーツキャラバン	地域の公園等に用具や指導者を配置し、子ども達に雪遊びやウインタースポーツの体験の機会を提供し、冬季に屋外で遊ぶ機会が減っている子ども達に、ウインタースポーツに親しむ習慣づくりを行います。	・平成26年度まで複数の市内幼稚園で実施。 ・平成27年度より、「大通公園ウインタースポーツフェスティバル」での雪遊びを後継事業と位置付けて実施。	○
施策9 スポーツに参加する人同士のふれあいの機会をつくります			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
市民健康づくりサポート事業	健康づくりに取り組む市民を対象に、相互の交流とウォーキング指導者としてのスキルを学ぶボランティア研修を実施し、研修終了後には、全区のボランティアが協力し「市民交流ウォーキング大会」を開催します。	・保) 保健所が実施。ウォーキング実践指導ボランティア研修は徐々に参加者が減少し現在30人程度。 ・市民交流ウォーキング大会参加者は300人でほぼ横ばいの状況。 ・ウォーキングを中心とした健康づくり活動の促進は、昨年度実施した市民意識調査の結果から、60～70代の運動習慣の確立に一定の効果があったと考え、今後は、運動習慣のある人の割合が低い、若い世代を対象とした健康づくり活動の普及を図る。	○
再掲 国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業	中学生を対象として、札幌市の姉妹都市(ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田広域市)との相互スポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱くきっかけを生み出します。	・各姉妹都市の中学生選手団と札幌の中学生選手団によるスポーツ交流を実施。 ・各都市との提携記念年には札幌から選手団を派遣するほか、5年に1度は受入を実施。	○
今後検討を要する取組			
事業名	実施状況	自己評価	
スポーツボランティアの育成と推進	・平成29年2月に開催した冬季アジア大会で活躍したボランティア「スマイル・サポーターズ」を、平成29年度から「さっぽろグローバルスポーツコミッション」が継承、北海道マラソンなどの様々なスポーツイベントへの活動機会を創出し、活動を継続。	○	

方針4 地域で身近にスポーツに親しめる機会を増やし、地域コミュニティの醸成につなげます			
施策10 地域のスポーツ活動の機会を充実させます			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
スポーツ推進委員の活動促進	スポーツ大会やイベントの実施にあたり、スポーツ推進委員を積極的に活用するとともに、研修の実施や研究協議会への参加等により、地域スポーツの企画・運営のスキルアップを図り、活動を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員事業において実施。 ・毎年新任スポーツ推進委員や女性委員を対象に研修会を開催しているほか、札幌マラソンやファイターズ優勝パレードなどのスポーツイベントにおいて、従事いただいている。 	○
再掲 オリンピックズキャラバン事業	スポーツによる地域の活性化に取り組んでいる団体にオリンピック経験者等のアスリートを派遣し、体験会や講習会を実施し、スポーツ機会の提供と充実を図るとともに、地域の活性化を促します。	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣イベントは毎年15件程度。参加人数は増加傾向。(平成27年度:1,470人⇒平成28年度:1,730人⇒平成29年度:2,236人) ・今後は、障がい者スポーツ体験会やパラアスリートによる講演会依頼への対応のため、パラアスリートとの協力体制の構築が必要。 	○
再掲 地域の健康づくり推進事業	地域に健康づくりサポーター等を派遣して、市民の自主的な健康づくりを推進します。また、ウォーキングマップの作成やウォーキング推進キャンペーンの実施により、運動習慣の定着を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりサポーター(健康づくりに関する指導経験を有する市民)を町内会などの地域組織に派遣している。 ・年間派遣回数:平成25年:64回、平成26年:69回、平成27年:100回、平成28年:103回、平成29年:106回と増加傾向。 ・派遣先のグループでは、活動を順調に継続中。派遣効果が見られる。 	○
今後検討を要する取組			
事業名	実施状況	自己評価	
学校体育施設開放事業の自主管理校における地域住民への開放のあり方検討	・地域スポーツにぎわい促進事業により体育振興会の意見交換会を実施(事例紹介など)	△	
施策11 地域に開かれたスポーツクラブを育成、支援します			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
地域スポーツにぎわい促進事業	地域スポーツクラブとしての役割を担う体育振興会等の活性化を図り、地域スポーツの賑わいを促進するため、競技団体やトップスポーツチーム等と連携した支援プログラムを検討・実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度まで体育振興会に対し補助を実施。 ・平成30年度から、行政の役割として体育振興会の運営に有用な各種情報提供、講師の紹介など市費を伴わない形でサポートを実施、体育振興会が受益者負担を確立するサポートを行う。 	○
今後検討を要する取組			
事業名	実施状況	自己評価	
地域スポーツクラブの活動拠点づくり支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放において自主管理校(体育振興会が管理する学校開放校)を設定し、地域のスポーツ振興を図る体育振興会の拠点を確保。 ・北海道日本ハムファイターズ、NPO法人北海道野球協議会と連携し、冬季の屋内練習場の不足を補うため、ファイターズの屋内練習場を開放。 	○	
地域スポーツクラブの自立支援	・学校開放において自主管理校(体育振興会が管理する学校開放校)を設定し、地域のスポーツ振興を図る体育振興会の拠点を確保。	○	
地域スポーツクラブ間のネットワークづくり支援	<ul style="list-style-type: none"> ・体育振興会連絡協議会と連携強化。 ・さぼスポネットによる体育振興会間のネットワーク作りを実施。 	○	

自己評価基準

- : 当初の目的を達成したもの、または達成が見込まれるもの。/ 事業に終期や目標値がなく、当面、継続していくもの。
 △: 現時点で目標は達成していないが、関連する事業・取組が実施されているもの
 ▲: 現時点で目標を達成することが困難で、今後に向けて検討を要するもの

目標3 スポーツを通じて「さっぽろ」が元気に			
方針5 豊富なスポーツ資源をいかして、交流人口の増加につとめます			
施策12 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
2017アジア冬季競技大会の開催	競技団体や学校等と連携しながら、積極的な市民参加を促し、市民が一体となった大会運営を行います。ウィンタースポーツの普及振興とともに、大会開催による経済効果等、市民が多くのメリットを享受できる大会とします。	<ul style="list-style-type: none"> ・会期: 平成29年2月19日から26日(8日間) ・アジアオリンピック評議会(OCA)主催、札幌市と帯広市で開催。 ・32の国と地域から、2,010人の選手・役員が参加。 ・観客数は83,612人、ボランティアは4,293人が参加。 	○
2015世界女子カーリング選手権大会の開催	札幌ならではの特性をいかしたウィンタースポーツの振興により、カーリングに対する市民の関心を高めるとともに、集客交流を通じて札幌市を国内外にPRします。	<ul style="list-style-type: none"> ・会期: 平成27年3月14日から22日(9日間) ・世界カーリング連盟(WCF)主催、月寒体育館で開催。 ・12の国と地域から、1,635人の選手・競技役員が参加。 ・一般来場者数は延べ12,560人。 	○
再掲 国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業	中学生を対象として、札幌市の姉妹都市(ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田広域市)との相互スポーツ交流を行い、子ども達が異文化への関心を抱ききっかけを生み出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・各姉妹都市の中学生選手団と札幌の中学生選手団によるスポーツ交流を実施。 ・各都市との提携記念年には札幌から選手団を派遣するほか、5年に1度は受入を実施。 	○
今後検討を要する取組			
事業名	実施状況	自己評価	
スポーツコミッションの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月に「さっぽろグローバルスポーツコミッション」を設立。 ・平成28年度から、国際・国内プロモーション、海外代表チーム合宿支援を行うなどスポーツを通じた国際交流・魅力発信を促進したほか、スポーツボランティアの管理・運営を実施。 	○	
オリンピック冬季競技大会・パラリンピック冬季競技大会の招致	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代に過度の財政負担を残すことのない計画策定を行うとともに、招致に向けた機運醸成の取組みや海外都市の情勢に係る情報収集を継続して行い、2度目のオリンピック、初のパラリンピック招致を目指す。 ・今後は、招致時期の決定や、国への協力要請、市民の機運醸成などが課題。 	○	
施策13 豊かなスポーツ環境をいかしてスポーツツーリズムの推進を図ります			
主な事業展開			
事業名	事業内容	実施状況	自己評価
スポーツ施設や競技大会によるスポーツツーリズムの推進	道外からの旅行者に向けて、札幌の豊富なスポーツ資源と恵まれた環境をPRし、スポーツを動機とした観光客の誘客を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月に「さっぽろグローバルスポーツコミッション」を設立。 ・平成28年度から「さっぽろグローバルスポーツコミッション」が中心となり、国際・国内プロモーション、海外代表チーム合宿支援を通じた国際交流・魅力発信を促進。 ・今後は、札幌の特性を生かし、スキーなどのウィンタースポーツを中心とした取組を強化。 	○

<p>再掲</p> <p>カーリング普及事業</p>	<p>カーリングを幅広い世代が楽しむことができる生涯スポーツとして普及させるとともに、観光客が気軽にカーリングを楽しめる機会を作り競技人口の増加や、観戦者の拡大を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どうぎんカーリングスタジアムで以下の3つの取組みを実施。 <ol style="list-style-type: none"> ①常駐指導者によるカーリングの技術指導 ②氷に親しむための子ども向け指導プログラムの実施 ③子ども向け広報誌の作成発行 ・事業開始から利用者は増加傾向。今後は競技力向上のため、これまでの主体だった初心者向けの指導体験から、継続的にカーリングに触れるきっかけ作りシフトしていく予定。 	<p>○</p>
<p>再掲</p> <p>プロスポネットSAPPOROによるプロスポーツチームとの連携</p>	<p>札幌市に本拠地を置く3つのプロスポーツチームと連携・協力により、観る文化の醸成をはじめ、地域やアマチュアスポーツ団体への指導、シティプロモートやスポーツツーリズムの推進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道日本ハムファイターズ、北海道コンサドーレ札幌、レバンガ北海道の3チームと連携し、「区民応援デー」、「共通スケジュール表の作成」、「サッポロキッズデー」などを含む6事業を実施。 ・平成29年度からはエスポラーダ北海道も加入。今後は4チーム連携による新たな取組みの検討が必要。 	<p>○</p>
<p>新中央体育館の建設</p>	<p>各種競技大会や市民利用のほか、トップスポーツチームや屋内イベント等での活用も可能な施設として、新たに中央体育館を整備します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再開発事業で関係権利者との調整に時間を要したものの、平成28年度に工事着手。平成29年度に再開発組合や各競技団体と施工内容に関する詳細な打ち合わせを実施。平成31年度の竣工・開館を予定。 	<p>○</p>
<p>今後検討を要する取組</p>			
<p>事業名</p>		<p>実施状況</p>	<p>自己評価</p>
<p>再掲</p> <p>スポーツコミッションの設置</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月に「さっぽろグローバルスポーツコミッション」を設立。 ・平成28年度から、国際・国内プロモーション、海外代表チーム合宿支援を行うなどスポーツを通じた国際交流・魅力発信を促進したほか、スポーツボランティアの管理・運営を実施。 	<p>○</p>
<p>札幌ドームパワーアッププランの策定</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大規模修繕については、今後10年間の保全計画を策定した。 ・大規模イベントの継続的な開催、利用者の安全確保など、施設を適切に維持管理していくため、平成26年度～平成35年度の10年間で97億円をかけて大規模保全を実施。 ・平成30年度：アリーナ照明設備改修、ホヴァリングステージ・ムービングウォール・巡回式可動席・ピッチャーズマウンド電気設備改修等を実施。 	<p>△</p>
<p>方針6 札幌の資源をいかしたスポーツ文化を醸成し、産業を活性化させます</p>			
<p>施策14 札幌の資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します</p>			
<p>主な事業展開</p>			
<p>事業名</p>	<p>事業内容</p>	<p>実施状況</p>	<p>自己評価</p>
<p>まちの魅力を再発見するウォーキングイベント等の実施</p>	<p>札幌市内の歴史的な施設や風景、スイーツ等、地域ごとに特色をいかしたコースを設定し、ウォーキングイベント等を実施し、市民が気軽にスポーツを楽しむことができ、地域の魅力を発見する機会をつくります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保)保健所で実施している「ウォーキング推進キャンペーン事業」(再掲)においても、札幌市立大学学生と協力して、若い世代、働く世代を対象にウォーキングマップを作成。平成25年度は交通局との協働事業として地下鉄を起終点としたウォーキングマップを作成したほか、ウォーキングイベントを開催。 ・ツーデーウォークの実施支援(会場確保の副申、後援)。 	<p>○</p>
<p>再掲</p> <p>スポーツ活動促進キャンペーンの実施</p>	<p>就職や結婚・出産・子育てを機会にスポーツをしなくなってしまった人や、スポーツに興味の薄い人を対象として、スポーツ活動を促進するキャンペーンを展開し、スポーツ実施率の向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に「ウォーキングや散歩」などの手軽な運動を促進することを目的に、主に積雪期間に、地下歩行空間、大通駅からバスセンター前駅までのコンコース、地下鉄車両内において、ウォーキングや、階段の積極的な上り下りを啓発するポスターを掲示。 ・今後は、ビジネスパーソンや女性に重点を置き、働きかけに関する取組みを検討する。 	<p>△</p>

今後検討を要する取組

事業名	実施状況	自己評価
食など様々な付加価値を持たせたスポーツイベント	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度、26年度には、「カーリングDEワインnight」として、カーリング体験、オリンピックの講話、道産食材・ワインを楽しむ事業を実施。 ・平成25年度から27年度にかけて、プロスポネットSAPPOROの取組みの中で、日ハム、レバンガ、コンサのアウェイ戦の際に、札幌の観光PRブースを設置しシティプロモートを実施。 	○
雪かきなど冬の暮らしをいかした健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「雪かき汗かきチャレンジ」を実施。市立小中高校において、自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しむ取り組みを行うとともに、冬期間における運動習慣を促進。 ・目標達成者には、認定書とプロスポネットと連携してサイン入りスコップを授与。 	○
従業員のスポーツ活動を積極的に支援する企業の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・保)保健所が健康づくりに取り組む企業と協定を締結、市民の健康づくり活動を支援。 ・札幌商工会議所、道商工会議所連合会では「健康企業宣言活動」を実施、メタボ対策や社内運動会など健康運動に取り組む企業を公表。 	△

施策15 スポーツをいかした産業への取組を支援します

主な事業展開

事業名	事業内容	実施状況	自己評価
スポーツイベントの実施による商店街の活性化	企業やトップスポーツチーム等と連携し、商店街でのイベント等で、スポーツに関連した商品の提供やPRを行い、スポーツ関連商品の流通拡大や、トップスポーツチームの集客力向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイターズ優勝の際に、狸小路4丁目を会場とする「さっぽろ商店街わくわく応援団」「札幌市商店街振興組合連合会」「札幌狸小路商店街振興組合」合同祝勝会の開催を支援。 ・平成28年度にファイターズが日本一になった際は、札幌駅前通にて優勝パレードを実施、観客動員は13.8万人、トップスポーツチームのPR、集客力向上を図り、賑わいを創出。 ・商店街の活性化を直接の目的とした事業は未実施。 	△
スポーツを活用した札幌産業の活性化	札幌のスポーツ資源を活用した創造性の高いビジネスの創出を目指し、セミナーや交流会、企画コンテスト等を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・経済観光局で「スポーツを活用した札幌産業活性化事業」を実施。札幌ならではのスポーツ資源を活用したビジネスモデルを、企業・団体・NPO等から公募し、優秀ビジネスモデルの提案事業者に補助金を交付し事業化を支援。 ・平成25年度3件、平成26年度2件の補助を実施(一過性のイベント型の申請が多かったこともあり事業は終了)。 	○

実施状況

○	59	当初の目的を達成したもの、または達成が見込まれるもの。事業に終期や目標値がなく、当面、継続していくもの。
△	9	現時点で目標は達成していないが、関連する事業・取組が実施されているもの
▲	0	現時点で目標を達成することが困難であり、今後に向けて検討を要するもの